

一般社団法人 中日文化研究所
平成 26 年度事業計画書
(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月)

1. 継続事業

a) 研究事業

a-1 企画研究

①郭沫若研究

当研究所は郭沫若氏との深い関係を有し、氏所有の蔵書の寄贈を受けた経緯がある。したがって郭沫若研究の成果を社会に発表することは中日文化研究所の社会的使命である。郭沫若氏は多面的な文化人であり、研究のアプローチを決定するにあたっては慎重を期するべきであるが、大要「ルーツとその影響」、「考古学者・歴史学者・文学者・書家・政治家としての足跡」、「日本との関わり」がテーマになる。26年度は、その一端を明らかにし、わずかでも郭沫若の実像に迫りたい。

②中国の食文化研究

日本の食文化は、喫茶を含めて、中国の食文化の影響を受けて発達してきた。中国の食文化を広く紹介し、あわせて中国の食文化を通じて日本食文化の特質や今後の可能性を追求していく。

③日中文化の比較文化的研究

日本文化は風土的に中国の南方との結びつきが深く、共通の文化的要素をもっている。両者の文化を比較研究することによって、文化交流の実態や日本文化の特質を明らかにすることが可能である。研究は日中の若手研究者を中心とする共同研究の体制をとっていく。26年度は、「雲南からみた日本文化」として論文を発表する。(研究領域は稲作文化、樹木崇拜、女性文化、神話・民話、信仰・宗教、建築、食文化等、多岐に渡る。「新嘗の比較研究」、「稲作文化の女性性」「樹木崇拜と伊勢神宮」等々のテーマとして発表していく)

a-2 個別研究

経済・民俗・文学・歴史・国際関係・科学・食文化などの各分野にお

いて行われる会員個人による研究に対して1件30万円を上限に5件～10件の研究費の支給を行う。

b) 研究会・講演会等の開催事業

①研究会の開催

企画研究および個別研究の発表を行う。開催回数は年間3回～4回、会場は三鷹ネットワーク大学機構。

②講演会の開催

「現在の中国」を理解する上で時宜にかなったテーマ設定を行い、外部講師を招いた講演会を主催する。講演会の開催回数は年間1回。テーマおよび講師、会場は適宜決定する。

c) 出版事業

①紀要『中日文化研究所論文集』刊行（年1回発行）

②中国文化叢書の刊行（年2回発行）

6月：『愉しい中国茶の世界』（その1）：王亜雷・重森・那須・欠端

12月：『雲南からみた日本文化』欠端、李子賢、李静、冬月

③所報『中日文化研究』（年1回発行）

2. 収益事業

茨城県美浦村に所有する「美浦研修センター」を賃貸する。

(以上)